

＜北海道熊研究会 会報＞ 第 80 号 2017 年 12 月 26 日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の 1～79 号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

＜熊類の起原と進化＞ 第 4 報

本稿を記すに当たり、特に次の 3 書を参照した。①A Riview of Fossil and Recent Bears of the Old World(Erdbrink, D. P.1953)、②The Cave Bear Story(Bjorn Kurten, 1976)、③The Pleistocene(Tage Nilsson, 1983)。特に①は、熊類研究の原典である。

＜月輪熊(Ursus thibetanus)の出現＞

既報で熊・北極熊・月輪熊・アメリカ黒熊は皆 Ursus 属の種で、Protursus 属から多様な移行型種を経て進化した事を述べた。即ち、約 5 百万年前に Protursus 属から Ursus minimus(ラテン語で Ursus ウルス「熊」 minimus ミニス「最小の」、「最小の熊」の義)が進化出現し ユーラシア大陸(ヨーロッパ とアジア大陸の総称)に広く棲息し、東へ分布を拡大したものは当時陸続きであった北米大陸にまで分布を拡大したらしい。そして約 250 万年前に、Ursus minimus のユーラシア個体群から移行型種を経てエトルスカスグマ Ursus etruscus ウルス・エトルスカスとアジア黒熊「別名月輪熊(Ursus thibetanus)」が、北米個体群からアメリカ黒熊(Ursus americanus)がそれぞれ進化出現したと考えられている

＜ホッキョクグマの出現＞

北極熊は U. etruscus から熊が進化する過程で、相当早い時期に一つの系統として出現しそ

の末裔であるという見解と、熊がツンドラ地帯をさらに越えた北極圏から北極海沿岸域に分布を拡大する過程で寒冷な氷海域でも生活しえる体質と体型に進化したものとする説がある。この熊の最古の化石はイギリスのロンドン郊外の **kew** キューからの産出で、年代は約 10 万年前のものだと言う。いづれにしても北極熊は熊類の進化史の中で最も新しく出現した種であるらしい。

<マレーグマとナマケグマの出現>

マレー熊と怠け熊の進化の過程はほとんど解っていない。ただ両種とも相当古い時代に既に出現していたらしい。 **Ursavus** 出現から約 1 千万年後にはおそらく **Helarctos** と **Melursus** の最初の種が出現していたらしい。怠け熊の最古の化石はインドのマドラス **Madras** にあるカルヌル **Karnul** 洞穴の約 2 百万年前の地層から出土しており、マレー熊の化石も約 2 百万年前の地層から出土している。特にマレー熊の化石は欧州からも出土しており、以前は相当広範な地域に棲息していたらしい。

<メガネグマの出現>

眼鏡熊の進化の過程もよくは解っていない。ただ **Ursavus** 出現から約 1 千万年後には、おそらく **Tremarctos** の最初の種が出現していたらしい。本種 **T. orenatus** の下顎骨は咬筋窩が二部分に分かれているなど、現存する他のクマ類と全く異なる特徴があるので、相当古い時代に特殊化した系統のクマの末裔と考えられている。現存眼鏡熊の直系先祖と見られている熊はフロリダアナグマ **Florida cave bear (Tremarctos floridanus)** と言って今から約 230 万年前から 8 千年前にかけて北米に広く棲息していた熊である。

<熊類の生息数>

Gary Brown 著の「**The Bear Almanac 2009**」によると、現棲種 7 種の世界での生息数は下記の通りである。生息数は、子が産まれる前が最少数、子が産まれた直後が最多数となりそれを両極として、年周変動するが、それに関する注記がなく、信頼性と共に、その点で不満であるが、目安として、ここに、転記する。

北極熊 2 万～2.5 万頭、 熊 20 万頭、 アメリカ黒熊 90 万頭
月輪熊 6 万頭、 ナマケ熊 1～2 万頭、 マレー熊 6 千～1 万頭、
メガネ熊 2 万頭

(丁)